

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyac@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 鈴木 文三郎  
幹事 豊田 貴久  
会報委員長 磯部 一智

2018～2019年度 国際ロータリー バリー・ラシン 会長テーマ

BE THE INSPIRATION インスピレーションになろう

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第3030回例会プログラム

[当年度=15回目；当月=2週目]

2018年（平成30年）11月12日(月)

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……我等の生業  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(11/19) ……  
クラブフォーラム(ロータリー財団委員会)  
卓話 「ロータリー財団 今、やるべきこと」  
講師 地区奨学基金・  
平和フェロシップ委員会  
委員長 長谷川龍伸 様  
(名古屋丸の内 RC)  
(紹介者 新海 伸二 会員)  
※健康診断(職業奉仕委員会)

(11/26) ……

- 卓話 「マスコミの裏側、めざましクラシックス」  
講師 東海テレビ事業局長  
杉田 朗 様  
(紹介者 加藤大志朗 会員)

13. 諸事ご案内……………〈職業奉仕委員長〉  
14. 点鐘……〈会長〉  
15. 閉会宣言

12:50～ 移動(徒歩)

## 2. 職場例会……………〈職業奉仕委員会〉

13:05～14:00

「トヨタ創業期試作工場」見学  
(愛知製鋼株式会社刈谷工場内)

14:00 散会

## 出席

会員総数 97名 出席免除 25名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 87名  
欠席 8名 出席率 90.80%  
前々回(10/29)の修正出席率 100%

## 会長報告

- 1) 11月10日(土)11日(日)に地区大会に参加して参りました。新入会員の皆さん含め、25名の参加ありがとうございました。  
2) 村井総一郎ガバナーより、先日のガバナー訪問のお礼状が届きました。

## 委員会報告

## ●職業奉仕委員会

- 1) 次週、11月19日例会開会前に、健康診断を実施させていただきますので少し早めにお越し頂き、受診頂きますようよろしくお願い致します。

## 地区大会





11月11日（日） 蒲郡市民会館

会長あいさつ

鈴木文三郎



私の父方の祖父、新美弥重は昭和10年にトヨタが国産トラックを生産・販売開始するやいなや、第1号車のユーザーとなりました。第1号車と言っても、最初に6台販売されたうちの1台でしたが、稲武町で製材業を営んでいた祖父は、日の出モーターズのセールスマン、水野一雄の熱意と社長の山口昇の「国策に貢献して欲しい」という正直さに心を動かされ、シボレーより1割高く、すぐに故障するトヨタのトラックを3,500円で購入したのです。

「性能には自信があります。ただし、耐久性については全く自信がありません。使っていただいて、故障したらトヨタの技術者が責任を持って改良しながら、アメリカ車並みにもっていこうというのです」という山口昇社長の言葉どおり、ブレーキや足回りが故障するたびにトヨタの技術者が駆けつけ、半年ごとに研究改良のために新車に乗り換えたそうです。また、知立にトヨタ専用のガソリンスタンドがあって、無料でガソリンを満タンにしてくれたそうです。

大きな事故も起こしたそうですが、トヨタの誠実な対応に、日の出モーターズ、そしてトヨタとの結びつきはますます強くなり、新美製材所は国産トラック第1号車以来、一貫してトヨタ車のユーザーを通しました。

昭和37年6月26日、トヨタが100万台ラインオフの記念式典で初期のユーザーに感謝状を贈りました。山口昇の進言で、第1号車を買った6名の中で、存命中の3名に対して当時取締役会長の石田退三氏から感謝状が手渡されました。その時の感謝状と石田退三氏、祖父新美弥重、山口昇氏の映った写真が角文はじめグループ会社の社長室に飾られています。私がトヨタ車にしか乗れない理由です。

ところで、今や世界のトヨタと言われるトヨタ自動車も、累計100万台を生産するのに27年間を費やしています。現在では年間に全世界で900万台、国内生産台数が年間で300万台超となっていることを考えると、隔世の感があります。世界のトヨタも始めは、一人一人のユーザーに支えられ、一台一台の車に真摯に向き合って改良を重ねてきたのです。

その精神を忘れずに、今もなお世界共通語となった“KAIZEN”を続けるトヨタは、100年に一度と言われる自動車の大変革の波を、必ずくぐり抜けてくれるものと期待しています。

私は、トヨタの燃料電池車 MIRAI の初期のユーザーになりました。次はトヨタの造る、完全自動運転自動車の第1号のユーザーになりたいと思っています。

職場例会

〈職業奉仕委員会〉

「トヨタ創業期試作工場」見学  
(愛知製鋼株式会社刈谷工場内)



